

令和5年度総会が開催されました。

コロナ禍が長引き、皆さんになかなかお会いできないまま時が過ぎていきましたが、今年度の総会を対面で開催する事ができ皆様お変わりない様子を感じられるのは嬉しいものでした。

令和5年度は役員の変更年度にあたり、総会において会長の再任と新副会長の承認が行われました。

会長とし再任されたのは安藤健二氏です。安藤会長は AMU の副会長、学習部会長を経て今回2度めに至り、教員としての豊富なキャリアや海外の補習校での指導経験は AMU活動の大きな支えとなっております。

また、上田市の多文化共生社会へ向けた活動に長年尽力いただいた滝沢副会長は、役員任期満了に伴い副会長を退任されました。また新副会長には母袋創一氏、田中琳氏が着任しました。

新理事には馬俊紅氏、室賀俊郎氏2名が加わりました。



上田東高等学校「探究の時間」

令和5年6月5日(月)上田東高等学校2学年の生徒の方々とほんごアムアム

学習者「ジョーリンさん」がフィリピンの文化や宗教等を説明、クイズ形式でのやり取りを行い上田市多文化共生推進協会

の活動を知り「上田市の多文化共生」に少しでも貢献できることを探すことをテーマに色々な問題を考えてくれました。

「探究の時間」の後、AMU の様々なイベントにボランティアとして参加してくれました。外国籍市民のアート展では、高校生自らイベントのインタビューもしてくれました。



川西地区人権同和教育講座

令和5年6月14日(水)川西公民館で人権同和教育講座が行われました。講師は安藤会長、田中琳副会長です。

「上田市の現状とAMUの活動紹介」を安藤会長から講演して頂きました。また、田中琳副会長が常に話されている差別の表れについて「排除、無視、同化、共生」を講演して頂きました。まずは「相手を知ること」「違いを認めること」また、日本の事がよく分からない人がいれば「サポートすること」が大切であると話されていました。今からでも出来る事は「挨拶」である。

初めの一歩である「挨拶」は、お互いが嫌っていない、受け入れている事のシグナルになるのではないのでしょうか。

## 信州大学留学生ガイダンス

令和5年6月15日(木)信州大学繊維学部留学生ガイダンスが行われました。安藤会長によるAMUの活動紹介(学習事業、交流事業、連携事業)を熱心に聞いていた留学生達(50人以上)が印象的でした。上田わっしょい、ワールドキッチン等イベントに参加したり、にほんごアムアムに來たりとAMUとのつながりを持ってくれるようにと期待を込めて帰路にたちました。



## 立教大学コミュニティ福祉学部オンライン出張講義

令和5年6月19日(月)立教大学コミュニティ福祉学部オンライン出張講義に安藤会長「私の海外経験とAMUの日本語教育」金久美理事による「文化が異なる人達と共に生活とは」講義がおこなわれました。日本語教育は多文化共生社会のための日本の重要な政策課題であり、上田市の現状を学生達に講義して下さいました。また、金久美理事は、在日コリアン4世からのずっとしりと重く深いメッセージを提示して下さいました。「生きているだけで差別の対象になること」マイノリティーの立場である金久美理事の講義には、多数派の側からでは考えられない視点、「無意識の思いこみ」を考え直すきっかけになったのではないのでしょうか。無意識の思い込みや無自覚の差別行為であるマイクロアグレッションは、それ自体が小さな(マイクロ)ものであっても積み重なる事で人を攻撃する可能性があるかもしれません。



## 染谷丘高等学校探究の時間

令和5年7月4日(火)染谷丘高等学校「探究の時間」が行われました。「上田市の多文化共生に少しでも貢献できることを探すこと」という目標を掲げ、自分達でできる事を考えていました。その中の一人の高校生が「外国籍市民とスポーツ」をするイベントを計画しました。また彼は3月に行われた「野外交流会」の実行委員になり、自分の探究のテーマである「多文化共生」について考え最終発表を終えたそうです。彼なりの「多文化共生」への道筋の扉が見えたのではないのでしょうか。



3月の野外交流会で外国籍市民と交流する染谷丘高校生

## 教育・進学ガイダンス

令和5年7月16日(日)市民プラザ・ゆうで、3年ぶりに対面で「教育・進学ガイダンス」が開催されました。子どもお話し大会では14名の児童生徒の方が参加してくれました。日本語教室の先生方も見守る中、一生懸命発表してくれました。



にほんごアムアムで学習し、堂々たる発表をしたラズビール君

げんき いっぱい しょうらい ゆめ かた こころ つよ う 強く打たれる こうこうせい せんぱい はつびょう  
 元気いっぱい将来の夢を語る子、また心を強く打たれる高校生の先輩の発表もありました。  
 しょうじょう しょうじょう う と こ えが お み う え だし がいこくせきじどうせいと がくしゅうけん まも ひつじょう  
 賞状、メダルを受け取った子たちのたくさんの笑顔を見ると上田市の外国籍児童生徒の学習権を守る必要があると  
 つよ かん じました。また、がくしゅうしえん ネットワークのかたがた えほん よみ き せきもと せきもと  
 強く感じました。また、学習支援ネットワークの方々の絵本の読み聞かせ、関本さんのバルーンアートのおかげで、学校  
 の説明中もみんな心から楽しんでいた様子が伝わりました。



だい かいうえだ  
**第52回上田わっしょい**

れいわ ねん がつ 29 日 (土) に 4 年ぶりの開催となる「第52回上田わっしょい」に AMU インターナショナル連として参加しま  
 した。アムプラザに集合し、おにぎりや唐揚げを食べてエネルギーを補充し総勢70人ほどが、正調踊りを楽しみました。  
 ペルーの民族衣装、日本の浴衣、中国のチャイナドレスと彩豊かな衣装に身を包み、皆さん踊っていました。途中参加  
 した人も多く、町中の観客の方からも声をかけて頂き AMU の周知にもつながる大きなイベント参加であったと思います。



もたいじつこういんちよう きゅうごたんとううしやまさま  
 母袋実行委員長 救護担当牛山様

しおだなかぐみじちかいこんだんかい  
**塩田中組自治会懇談会**

せんどう あんどうかいちよう  
 先導：安藤会長

れいわ ねん がつ にち きん しおだなこうみんかん おこな したなかぐみじちかいこんだんかい あんどうかいちよう  
 令和5年8月25日(金)塩田公民館で行われた「塩田中組自治会懇談会」では、安藤会長による  
 「上田市の現状と AMU の活動」についての講義、レイナ百合子ユリアナ理事による「外国籍市民か  
 ら見た日本」としてインドネシアの事、イスラム教の事を講義して下さいました。イスラム教の  
 5つの柱「信仰告白(シャハーダ)」「礼拝(サラート)」「喜捨(ザカート)」「ラマダーン月の  
 断食」「巡礼(ハッジ)」について説明、また「ヒジャブ」を若い時には被らなかつたが父親のご  
 逝去後ヒジャブを被る事になった理由を話して頂きました。ヒジャブを被る事は、困惑や抑圧等の  
 感情と共に愛、充実感、プラスの感情に繋がるのではないかと感じました。

## ワールドキッチン ～ネパール編～

令和5年8月29日(火)中央公民館で「ワールドキッチン」～ネパール編が開催されました。

先着25名の枠に30名以上の応募がありました。募集してあっという間に埋まってしまったほどの人気でした。

それもそのはずで、講師は4店舗あるネパールレストラン「エベレスト」2店舗の店長である「カルキスジタ」さんでプロの味を伝授して頂けるのですから。みなさん、料理も勿論ですがネパールの事(ブッタ生誕の地)であること、ヒンドゥー教徒の事(牛は神様であるから食べられない)をととても興味を持ち聞き入り質問もしていました。



## 上田高等学校フィールドワーク

上田高等学校では、提示された課題に対しグループで検討し、解決策を見つけ出していく「フィールドワーク」の取り組みを行っています。

上田市多文化共生推進協会から提示された「多文化共生社会であるいま。日本人と外国籍市民、それぞれがもつ文化背景、習慣、考え方などの違いや共通点を知り、共感をもって会話することで、その人の(その国)への親近感もてるようになるのか、試してみよう」という課題に、1年8組19名の学生が先生と一緒に取り組んでくれました。検討結果の発表会が、令和5年9月14日(木)に上田駅前ビル・パレオの2階会議室で行われました。最初に馬俊紅理事の「多文化共生について」という講演の後、1班～4班に分かれての発表がありました。「外国人とひとくくりにしなないで個人として接する、交流イベントに積極的に参加する」「ゴミの分別等、困っている外国人向けに分かりやすいポスターを作る」等々の意見があり、高校生の目には「もっと接する機会を増やすことが理解につながる」と映ったようです。また、2か月間の課題のない夏休み、七福神は中国では8人、日本語の難しさ、カルチャーショック温泉などの異文化インタビューならでの内容を盛り込んで発表してくれました。最後にAMUの安藤会長から全体講評を頂きました。



## 防災基礎講座

令和5年10月1日(日)中央消防署で「外国籍市民のための防災基礎講座」が行われました。

災害がおきた時、どうすればよいか?お話を上田市危機管理防災課の方に講義をして頂きました。また、防災メールの登録を実際に行いました。講義が終わると避難所で使用するダンボールでできているベッドや簡易トイレを実際に使ってみました。その後は屋外に出て「消火器」の使い方をレクチャーして頂き自分で出来るよう体験もしました。参加した皆さん消防署の方に色々な疑問をぶつけ、自分を守るために必要な事を身につけた貴重な時間だったのではないのでしょうか。

## うえだ多文化交流フェスタ 2023

AMUでは、毎年「うえだ多文化交流フェスタ」というイベントを行っています。今年は10月8日（日）に上田中央公民館で盛大に開催されました。

会場内には10か所のブースが設けられ、外国籍市民の母国の文化や関連団体の活動が紹介されました。中国文化のブースでは、中国の伝統玩具を実際に手に取って遊ぶことができ、プーアール茶の試飲や中国無形文化遺産の皮影戯（影絵劇）を体験することができました。



またAMU関連団体のブースでは、パネルやパンフレットを用いてその幅広い活動内容について紹介されており、上田市には青年海外協力隊や姉妹都市交流を行う団体、外国籍市民の日本語学習をサポートしてくれる団体など、国際交流と多文化共生を支援する多彩な活動団体が存在することがよくわかりました。



ステージでは、出演者の皆さんがこの日のために練習を重ね準備してきた素晴らしい演奏や発表が行われました。ドイツで留学経験のあるプロトロンボン奏者の高木さんの演奏では、ドイツ語で乾杯の歌をみんなで歌い、会場が一体となって大変盛り上がりしました。ステージ発表の最後を飾る「ペルシアの風」の演奏では、イランの美しい砂漠風景を思い起こさせるような、力強い歌詞と美しい音色がとても感動的でした。演奏者の板谷拳さんから、「世界中で様々な問題が起きている。どうやって共存の道を見つけられるか、みんなで一緒に考えていきましょう。」という言葉で締めくくられ、AMUの活動意義の全てを代弁してくださっていると感じました。

## がいくせきしみん てん 外国籍市民のアート展

令和5年10月28日（土）から11月5日（日）まで上田市立美術館（サントミュージゼ）アトリエにて「外国籍市民のアート展」を開催しました。この作品展では、外国籍や外国にルーツのある市民の絵画や写真などのアート作品を展示します。市民の方々に作品を見てもらうことで、上田市の外国籍アーティストに興味を持ってもらうこと、外国籍ならではの独自の視点で見た上田市を楽しんでいただくことを目的としています。今年は6名の方々に出品していただきました。

アート展の感想では、「想像以上に素敵な作品に感動しました。」といった好評の声の他、「多文化の良さを感じた。」「日本にはない感性を感じた。」「多文化共生とは何か考えた。」など、作品を通し多文化共生について考えてくださったお客様もいらっしゃいました。

昨年初めて開催し、好評だったので2回目の開催でした。結果は8日間（10月31日（火）は会場の休館日）を通して301人の来場があり、今年も大盛況となりました。



## にほんごしえんしゃようせいこうざ 日本語支援者養成講座

令和5年10月25日（水）から11月18日（土）まで、計4回に渡り、アムプラザで「日本語支援者養成講座」が開催されました。講師は「荻野真由美」先生。日本語講師と外国人コンサルタントをされているベテランの先生です。受講生の出席率は100%。受講生28名の方のアンケートでは「指導の準備、短い言葉での表現、外国人の立場に立った日本語でのコミュニケーションなど得ることの大切さ等多くの事を学ぶ事ができました。」と皆さんたくさんの事を学ばれていたようです。今回、受講された方が外国籍の方への日本語学習を支えて頂き外国籍住民の方々が暮らしやすい、そして共生していく社会になれば良いと考えました。



## かいいん さんかしゃこうりゅうかい 会員・フェスタ参加者交流会

令和5年11月12日(日)中央公民館にて「会員・フェスタ参加者交流会」が行われました。10月に開催された「うえだ多文化交流フェスタ2023」にご参加頂いた方、ご支援頂いた方との交流会となっています。

当日は、樋村理事初め山越さん氏家さんによる「ピザ」「マカロニサラダ」エメラルドグリーン色のゼリーが入った「フルーツポンチ」がテーブルを色鮮やかに飾ってくれました。

半田アドバイザーによる「じゃんけんゲーム」は盛り上がりみんな童心に帰って楽しまれたようです。次の「安藤会長クイズ」では血液型や好きな俳優など会長を知る、AMUを知る事が出来たのではないのでしょうか。



一番先に会場に到着した「ふれあい日本語教室」の生徒さん。上田わっしょいにも参加し活躍してくれたのですが、開口一番が「何かお手伝いする事はありますか？」でした。

ゲストとして呼ばれた彼らですが、何か役に立つこと助ける事があるかと思ってくれたひとことでした。小さな事ですが、彼らの思いは「助け合うこと」困った事があれば、「お互い様」の気持ち。この声かけが「多文化共生社会」への一歩になるのではないのでしょうか。

「うえだ多文化交流フェスタ2023」から「会員・フェスタ参加者交流会」AMUが行っている事が共生社会へと繋がるような活動になれば良いと思いました。

## かいいんけんしゅうかい 会員研修会

令和5年11月29日(水)伊勢崎市まで「会員研修会」に行ってきました。総勢14名の会員とともに、まずは伊勢崎市役所へ。立派な建物でした。市の国際課の方のお出迎えを受けて、市役所の中を通過して、会議室へ。そこには、国際課の皆さん、教育委員会学校教育課の皆さんがお待ちでした。

あらかじめ提出してあった「質問書」の回答について説明がありました。とくに「外国籍児童生徒の日本語教育」については、上田市の指導体制とのギャップが大きくて圧倒されました。

「初期適応指導校」の手厚い取り組み、日本語教室の担当者の充実、学校生活支援助手の派遣、さらに日本語を学びたい子どもたちは、通学区を緩和して「拠点校」に籍をおいて指導を受けられることなど、伊勢崎市の力の入れようを十分に感じ取ることができました。加えて、こちらからの質問に答えて、「日本語教室の担当者」や「学校生活支援助手」の年3回の研修など、「現状をよりよくしていこうとする努力」を続けていることも教えてもらいました。この後、おいしい昼食をいただき、「本庄早稲田の杜 ミュージアム」を訪問しました。2グループに分かれて、学芸員の方からていねいな説明を受けて「古代の世界の知識と見聞」をひろげることができました。

## だいがくいん ことぶき大学院



令和6年1月16日(火)「ことぶき大学院」での講演が行われました。講師は、安藤会長とレイナ百合子ユリアナ理事です。AMUの活動紹介と「イスラム教」の紹介です。「ザカット」喜捨、施しは、「浄化と成長」の意味である事、「イスラム教」の事を分かりやすく説明して下さいました。なぜ「ヒジャブ」を被るのか「断食」を行うのか、普段接する事があまりない宗教の事ですが、まずは、「知る事」が大切であると感じました。

## シニア大学

令和6年1月17日(水)「シニア大学」で田中琳副会長、マーメットシヨーン理事による講演が行われました。普段から教壇に立たれているシヨーン理事。まずは軽妙なトークで受講生達を和まし、「カナダについて」自分が知っている事をポスターセッションで受講生達に「イラスト」や「文字」で表現してもらいました。田中琳副会長からは「異文化と共生する為」として、実例をあげ分かりやすく説明して下さいました。



## ワールドキッチン ~ブラジル編~

令和6年2月7日(水) 市民プラザ・ゆうで「ワールドキッチン ブラジル編」が開催されました。講師はポルトガル語の通訳をしている「比嘉マリソル」さんです。募集開始から、2日で定員超えとなるほどの人気でした。調理室からは、なんともいえない良い香り。「伝統的なブラジル料理 Prato Feito」の始まりの合図です。チキン、ごはん、サラダ、煮込んだ豆、フライドポテトがワンプレートに彩られます。チキンには、ブラジルの調味料「チミチヨリ」をすりこみ焼いていきます。参加者の方の中には、豆スープを何杯もおかわりする人もいました。また、色々な国籍の参加者が一緒になり様々な形、具材のパステルを作りました。初めて会った人同士、国籍も異なる人達が料理を通じ互いの文化を知る事の重要さも感じました。

## 異文化理解講演会

令和6年3月3日中央公民館でイラン人ジャーナリスト板谷ケンさんによる講演会が行われました。イランの紹介から辿ってきた歴史、他国との関係、そして昨今のウクライナ戦争、パレスチナ・ガザ地区の紛争との関連性についてお話いただきました。特にガザ地区の紛争は、原油などエネルギー資源との関係性も強く、世界経済が巻き込まれ、日本にいる私たちにも直接関係してくる身近なことであるという認識を持つことが重要であると板谷さんは訴えていました。後半では今後の世界の動向について、「国連安全保障理事会の機能不全など、世界の平和を維持するシステムが崩れてきている。より実効性のある新たな組織、仕組みを作る必要がある。」とご自身の意見を述べていました。



## 野外交流会

令和6年3月24日(日)「上田のスイーツを探そう!たべよう」ツアーが行われました。染谷丘高等学校の生徒の方とにほんごアムアの学習者とのコラボ企画です。彼らが実行委員になり、ツアーの企画から運営を行いました。当日は、天候にも恵まれ5グループに分かれスイーツ店を各コースのチェックポイントを目当てに探します。上田市の伝統的な和菓子や洋菓子を各店舗で引換券と交換。1時間半街中を歩き市役所のつむぎラウンジへ。つむぎラウンジでは、スイーツの品評会と半田アドバイザーの軽妙なトークでのじゃんけんゲームで会場は盛り上がりしました。

若いパワーで今後もAMUの活動を支え、そして、「多文化共生」とは何か、考え共生していく繋がりをもち続けてもらえるよう来年度も活動を続けていきたと思っています。

